

令和4年度 教育方針説明

パンデミック後の新たな教育の一步を踏み出す

～共育による絆づくりから～

歴史や古典を紐解くまでもなく、「栄枯盛衰」「盛者必衰」は世の中の理であります。国であり市であっても、逃れることはできません。それゆえ、目先でなく、長期的展望をもって、今を生きる人々の幸福を追究する必要があります。

「愛」という漢字を頭に描いてください。字の真ん中にあるのは「心」です。漢和辞典で引くときの部首も「心」です。この「心」の受け渡しを人と繰り返すことで、思いやりや慈しみの「愛」が生まれ、「信頼」が築かれ、「絆」が育まれます。

2年余に及ぶ新型コロナウイルスの感染拡大により、この「絆」を育む活動が、社会から消え、人とのつながりが減り、「愛」が希薄になり、心がすさんできたのでしょうか。他人をも巻き込む自己中心の犯罪が多く発生しています。

経済動向や国際情勢、自然災害も気がかりです。この厳しい現実を乗り越えるのは、人間の叡智です。叡智を磨くのは教育です。人とのつながりや体験を大切に作る共育です。共育で、叡智と豊かな心を醸成していくことが肝心です。

今回の教育方針では、新・新城市発足後16年間の新城教育の歩みを踏まえて、展望を切り拓きたいと思えます。よろしくお願ひします。

1 教育理念

平成27年、市議会で承認いただいた「新城教育憲章」に示した教育理念のもと、教育の中立性を堅持して新城教育を推進します。新城の自然・人・歴史文化の三宝を誇りとし、市民総ぐるみで「共育」を進め、自他の幸福を築ける人をめざします。

2 学校教育

地域の子は地域で育てる、声を掛け合い挨拶を交わす。地域行事に参加し、地域ボランティアを实践する。学区民こぞって学校や公民館に集って共育活動をする。登下校の安全を地域で見守る。

市内各所で、共育支援委員会や地域自治区のご理解ご協力により、共育の輪が着実に広がってきました。2年余に及ぶコロナ禍の活動制限を克服し、感動・創造・貢献の喜びのある活動と、共育12の实践を進めてまいりたいと思えます。

また、学校教育の内容につきましては、新学習指導要領でめざす授業の構築、デジタル時代の新城版 GIGA スクールの実現、グローバル人材を育む英語教育の在り方、道徳的実践力の醸成、部活動の地域化と健康・体力・運動能力の増進、不登校はじめ個別最適で協働の教育の在り方などが、重点的に取り組むべき課題となります。

(1) 新城版「共育授業」の構築

市内小中学校では、紙教科書にチョーク・黒板の集団一斉授業だけでなく、ICT機器を活用して、デジタル教材、遠隔授業、個別最適・協働化の授業を展開しています。読解力、思考力、プレゼン力など生きる力の素地を築くために、多く本を読み、多く文章を書き、多く話をする「三多活動」の一層の充実を図ります。そのためには、学校図書費の拡充と教師の研修時間の確保が重要です。

共育による授業も新城ならではのものです。多くの学校で、日常的に、地域のふるさと先生が三宝に根付いた話題や体験を提供してくださっています。中学校でのキャリア教育では地元経済界のご協力をいただき、地に着いた学びを展開しています。共育支援委員会や地域自治区も貴重な体験の場を提供していただいています。共育の充実こそが、令和に、新城で、学び育つ子供にとって「最高の財産」になると思います。

(2) 新城版「GIGAスクール」の実現

光通信、一人一台タブレット、大型ディスプレイ、学習ソフト、校務システム等のICT機器の活用によって、市内小中学校の教育活動が充実したものになっています。

今後は、学習ソフトやデジタル環境の整備とともに、学校や家庭での効果的な活用、リモート学習、学校間交流活動、民間会社や海外ニューキャッスルとの交流など、幅広い活用を進めていきます。特に、小規模校のデメリットを解消するための他校との合同授業、広い市域を移動せずにできる遠隔学習、不登校生のリモート学習などを考えています。

(3) 英語教育の充実

新城市には、ニューキャッスルアライアンスという国際交流の場があります。また、中断しているものの、中学生や高校生の海外派遣の場も考えられます。新城の三宝を身に付けての交流ならば、より深い国際交流ができます。新城共育12を身につけての交流ならば、敬意が生まれます。この2つを修得して、異文化理解と国際交流を円滑に進めるには、英語でのコミュニケーション力の向上が必要です。

新城市では、すでに小学校高学年では英語専科の教員を配置して授業を行っております。また、毎週「英語の日」を設け、小学校低学年から英語に関心をもって生活できるように取り組んでいます。今後は、国際交流協会等との連携で、オンラインでの海外の学校との交流や、ALTの拡充により、実践力の向上に務めてまいります。

また、近年増えてきている新城市在住の外国人に対しても、英語圏でなくても、異文化理解を深めて交流を図ることは、外国語学習において大切なことです。日本語指導の必要な外国人の子供に対する支援も、プレスクールをはじめとして、充実を図ってまいります。

(4) 道徳的実践力の醸成

「他人に迷惑をかけない」「弱い者いじめをしない」「お天道様は見ている」「ならんことはならん」といった昔から伝えられてきた「人の道」が揺らいでいます。学校で、道徳が「特別な教科」として位置づけられ、考え議論し判断することが重視されています。同時に大切なのは、社会生活に必要な基本的な生活習慣や礼儀・倫理を身に付けることです。

そのための「最大の教育環境」は、学校においては教師、家庭においては親、地域においては大人です。人情あつい街・住みよい街「新城」であるためにも、「和を以て貴しとなす」の共育版である「友達、家族なかよくします」から始まる「共育12」を、学校・家庭・地域で定着していきたいものです。市PTA連絡協議会が実施している「共育川柳」には、子供や市民から、毎年1500句近くの応募があり、今後、「共育12」が、各種社会教育団体や地域自治区など、地域活動のなかに位置付けられていくことを望んでいます。

(5) 部活動・生涯スポーツの地域化

生涯にわたってスポーツや文化活動に親しめることは、心を豊かにし、健康・体力を増進し、人生を彩ります。現在、小学校の課外活動、中学校の部活動が、さまざまな事情で再検討の時期を迎えています。例えば、少子化による活動種目の減少、チーム種目の不成立、顧問教師の減少、教師の働き方、小学校クラブ活動との連携などの課題です。

子供たちがやりたい活動を選択できるようにするためには、子供の人数が必要です。指導者の確保もあります。そのため、新城市の中学校部活動については、段階的に地域化を進めます。第1段階として、複数の学校で実施する合同部活動を、第2段階として、市内全中学校が一同に会する地域部活動を構想しています。実現に向けては、適切な活動場所と指導者の確保、移動手段が不可欠です。

一方、コロナ禍で停止してきた学校プールでの水泳指導につきましては、令和4年度より、試験的に一部学校で民間施設を利用して進めてまいります。

(6) 不登校への取組

不登校・引きこもりの人数が少なくなりません。これまで、スクールカウンセラー、相談員、あすなろ教室など、さまざまな支援体制を整えてきました。新たな一人を出さない努力も続けてきました。今後も、社会とのつながりを持ち、自立して生活できるよう、

できうるサポートを続けてまいります。

あすなる教室で学んでいる子供たちのしっかりした様子を見ていると、多くの子供が通いやすい利便性の良い場所へのフリースクールの設置を希望します。決められた学校・学級、定められた教科・カリキュラムの現行制度になじめない不登校生には、そうではない新たな学習環境が必要で、そこまで踏み込まないと解決の糸口は見つからないと考えます。

(7) 諸教育、諸課題への対応

学校は、新学習指導要領の教育観のもと、ICT 機器やデジタル教材を用いて、日々の授業に取り組んでいます。教科以外にも、環境教育、主権者教育、防災教育、金銭教育など、さまざまな教育を行っています。生活面でも、熱中症やアレルギー対策、いじめや問題行動、虐待やヤングケアラーなど、万般にわたり子供たちを支援しています。近年では、コロナの感染防止対策に、チーム学校で細心の注意を払って取り組んでいます。

子供は生きており、学校も生きています。生きているが故に、常に予想どおりにはならず、その時その場面での、一人一人の子供に対するきめ細やかな対処や指導が必要になります。その意味で、適切な人数規模の学級が求められ、来年度、市内中学校において、国に先駆けて、35人の少人数学級を実現します。

(8) 教育関連施設

合併当初は、小中学校の校舎などの耐震補強工事や、文化会館の空調などの改修工事を進めました。体育館も、千郷小、鳳来中、八名小、八名中、新城小、作手小、黄柳川小、東郷中などで新設されました。全小中学校の普通教室にエアコンが完備しました。

平成20年に学校光ネットワークが構築されました。小中学校ホームページが開設され、2年後にはアクセス数237万回に達しました。こうした先行投資は、一人一台タブレットが完備した現在のGIGAスクールにおいて、おおいに力を発揮しています。

一方、学校生活において欠かせない給食を継続するために必要な共同調理場の建設につきましては、事業の遅滞なき進捗に努めてまいります。各学校の現在の調理場につきましては、不備があれば迅速に対応していきます。学校トイレの洋式化の拡大につきましても、事業計画を策定し、実施に向けて尽力してまいります。

3 生涯共育

(1) 生涯学習

合併当初においては3市町村で生涯学習の在り方が異なり、その融合と特色の発揮に尽力しました。それぞれで行っていた成人式は、平成20年から、成人者自身の企画により一本化して開催することになりました。異なっていた公民館・コミュニティー活動も、平成22年から、77公民館分館組織として動き始めました。新城地区の公民館施設の地元

地区への移管も進んでいます。一方、高齢化・少子化・人口減に伴い、活動も縮小・停滞してきており、学校を核とした生涯共育活動や、地域自治区の広い範囲の活動で、地域の絆を育んでいきたいものです。

最近では、コロナ禍により、公民館活動も PTA 事業も子ども会事業も、イベント等の行事は、ほぼ開催されることなく、2 年間が経過しました。地域の祭礼や盆行事などの伝統行事も同様です。アフターコロナにおいて、どのようにノウハウを継承していくかが問題です。来年度においては、感染状況を見極めながら、実施できる方法を工夫して前向きに取り組んでいくことが重要になります。

(2) 文化活動

平成 23 年に 3 地区が一本化された文化協会をはじめとした文化活動も、各種文化団体が活発に活動を展開してきました。しかし、内外から注目されていた奥三河芸能祭が中止され、市民文化講座や芸術劇場などの文化事業も縮小、節句まつりも中止となりました。そんな中、高校生の祭典やニューアーティスト Fes など、若い力で盛り上げようと企画してきました。

最近では、感染防止策を徹底する中で、市民文化祭や市民音楽祭などが実施されましたが、文化会館大小ホールを使用していたイベントの多くは中止となりました。来年度は、大小ホールの天井工事で工事中は使用できなくなりますので、感染状況を見極めながらの活用を進めてまいります。

自治体の文化バロメーターである図書館は、雑誌コーナーの充実や図書館だよりの発行、開館時間や貸出期間の拡大、返却ポストや集団貸出・メール便貸出などの新規制度を設けたことで、貸出冊数 19 万冊を記録しました。今後は、若者議会発案でリノベーションした図書館が市民にとってより身近で親しめる存在になるように努めてまいります。

(3) スポーツ

スポーツ推進委員やスポーツ協会の諸団体の活動は、つくしんぼうスポレク祭や市民体育大会など、関係の皆様方の尽力で、合併当初から活発に展開されてきました。平成 19 年の市民プール休止の際には、B&G や八名小プールの市民開放で対応しました。また、新城ならではの清流を活用しての「親子せせらぎエリア」も好評を得ました。

教育委員会としては、合併当初から DOS 事業の担当となり、新城の自然を活用したアウトドアスポーツの発展に尽力しました。新城ラリーやツールド新城、トレイルランなど、市民や関係機関の理解を得つつ、平成 27 年には市民人口に匹敵する観客数 5 万人を達成できました。新城マラソン大会も内外から 3～4 千人の参加者があります。

最近では、感染状況を見極めながらの活動で十分な活動はできませんでした。新城マラソン大会も中止のやむなきに至りました。この間、子供をはじめ体力の減退は否めません。

来年度に向けては、感染状況を見極めながら、B&G 施設をはじめスポーツ施設の活用を、中学校部活動も考慮しながら、生涯スポーツの観点で進めていきたいと思いをします。

(4) 文化財

文化財は、「新城の三宝」そのものです。新城の自然・人・歴史文化は、文化財指定とともに、日本百選にも数多く選定されています。平成 21 年に設楽原歴史資料館で火縄銃一式を購入できたことで、日本一の火縄銃館として、長篠城址史跡保存館とともに、全国からの来訪者やメディアの取材が続いています。今後、火縄銃のさらなる拡充が必要と考えています。

平成 24 年に提唱した「東三河ジオパーク構想」も、鳳来寺山自然科学博物館を核に啓発を続けており、ジオツアーなど根強い人気があります。

本年度は、鳳来山東照宮のご宮殿が愛知県の文化財指定を受けました。東照宮建立よりも古い時代のものであることが立証され、伝承されてきた江戸城紅葉山御殿の東照宮移設が真実味を帯びてきました。

コロナ禍で、奥三河の来訪者が増えました。新城の宝である鳳来寺山や乳岩の天然記念物・名勝はじめ、日本百選の史跡やジオサイトを訪れています。

来訪者が感動し満足してリピーターになっていただけるよう、サイトやアクセスの整備が必要であり、今後、案内・説明看板の作成・整備を進めてまいります。

以上、合併以来の教育委員会の主な歩みを踏まえて、今後の展望について述べさせていただきました。自然や経済、地政学のさまざまなリスクが山積するなかで、それらを乗り越え、逞しく生き抜く力が求められます。

人と人とのつながりを大切にし、愛と絆を育むなかで、生きる勇気を培っていきたい。高齢化、過疎化、少子化の進むなかで、学校を拠点とした共育で、新城で生きる誇りを養いたい。

そんな祈りにも似た願いを新城教育に込めて令和 4 年度の事業を進めてまいります。

ご清聴、ありがとうございました。